

幼 児 の 教 育

昭 和 三 十 年 十 二 月

うしろ向き

わたしが子ぎもをぢつこ見るのは、そのうしろ向きだ。まへ向きに相對しては、
笑みかわすか、話しあふか、手をこりあふか、戯れに争ふ形をこるか、なににし
ても相互いの交渉であつて、ぢつこ見る暇も隔もない。たゞ、うしろ向き
だけは、心をこめて眺めるこゝが出来る。

繪を描いてゐる子の、少し斜に傾いて一心な首すぢ。砂場に遊ぶ子の、力を盛
りあげた兩の肩。小鳥に見入つてゐる子の、すらりこしてわだかまりのない立
姿。さては、かゞみ腰に毬をついてゐる子の、房々とお下げのゆらぐうなぢ。な
んこいふ豊富な表情であらう。

前に廻つても見たいが、目をあはせては、その無心を素すおそれもある。せめ
ては横顔をさと思ふが、いゝえく、そつこ、しかし、ぢつこ、うしろから眺め
させて貰つて置かう。そこでは、子ぎもの心の動きに、たゞ同じ方向にのみ追隨
してゐるこゝも出来るのであるし。

(倉橋密三)